

凡 語

アール・ブリュットやアウトサイダー・アートと呼ばれる作品をよく目にするようになってきた▼正規の美術教育を受けていない人たちの作品、特に精神障害や知的障害のある人の作品をいうことが多いが、近年は公立美術館で本格的な展覧会が開催されるなど、美術界でも存在感を増しつつあるようだ▼近江八幡市にあるポータル・アートミュージアムNOMAは、小規模ながらそんな流れの推進に大きな役割を果たしてきた施設の一つだ。2004年に滋賀県社会福祉事業団が創設。障害の有無を超えた「普遍的な表現の力」を感じてもらおうと障害者と一般の作家の作品を並列して展示、並行して作品の全国調査も進めてきた▼そんな活動が実を結び、来年3月から半年間、パリのアル・サン・ピエール美術館で日本人作家64人の作品約1千点を紹介する展覧会が開かれるという。日本のアール・ブリュットが海外でこれほど大規模に紹介されるのは初めてだそうだ▼日本では、これらの作品はどちらかというと福祉の面からみられがちで、美術としての評価は欧米に比べまだまだ低いといわれる。実際、取り扱う画廊は今も少なく、公的な美術館もほとんど収集対象としていないのが現状だ▼それだけに今回のパリ展が美術としての正当な評価、さらには障害者の自立につながる機縁になればと願う関係者は多い。「芸術の都」の反応が楽しみだ。